

解雇相談の実例報告

きょうとユニオンが集会



労働相談窓口の開設を前に、非正規労働問題などを考え合った集会(京都市下京区)

きょうとユニオン(京都市南区)は31日、非正規雇用の拡大など不安定な労働環境を考

える集会を下京区のキヤンパスプラザ京都で開いた。先駆的な相談活動に取り組むNPO

法人労働相談センター(東京都)の石川源嗣理事長らが講演した。きょうとユニオンが1日に精神科医や外国人支援団体など他分野と連携した労働相談窓口を開設するのを前に開いた。関係団体のメンバーら約40人が参加した。

石川理事長は同センターに寄せられる相談が今年は過去最高の6千件台に上る見通しで、解雇をめぐる相談が多いことを指摘。

「妊娠を伝えると解雇された」「賃金半減か退職の選択を迫られた」などの実例を報告した。

相談機関がインターネットの活用やボランティア養成を進め、相談内容の多様化に対応する必要性を訴えた。

貧困問題や労働法の学習を実践する西成高(大阪市)の肥下彰男教諭は、学校教育段階で労働者の権利を学ぶ重要性を強調した。

(吉永周平)